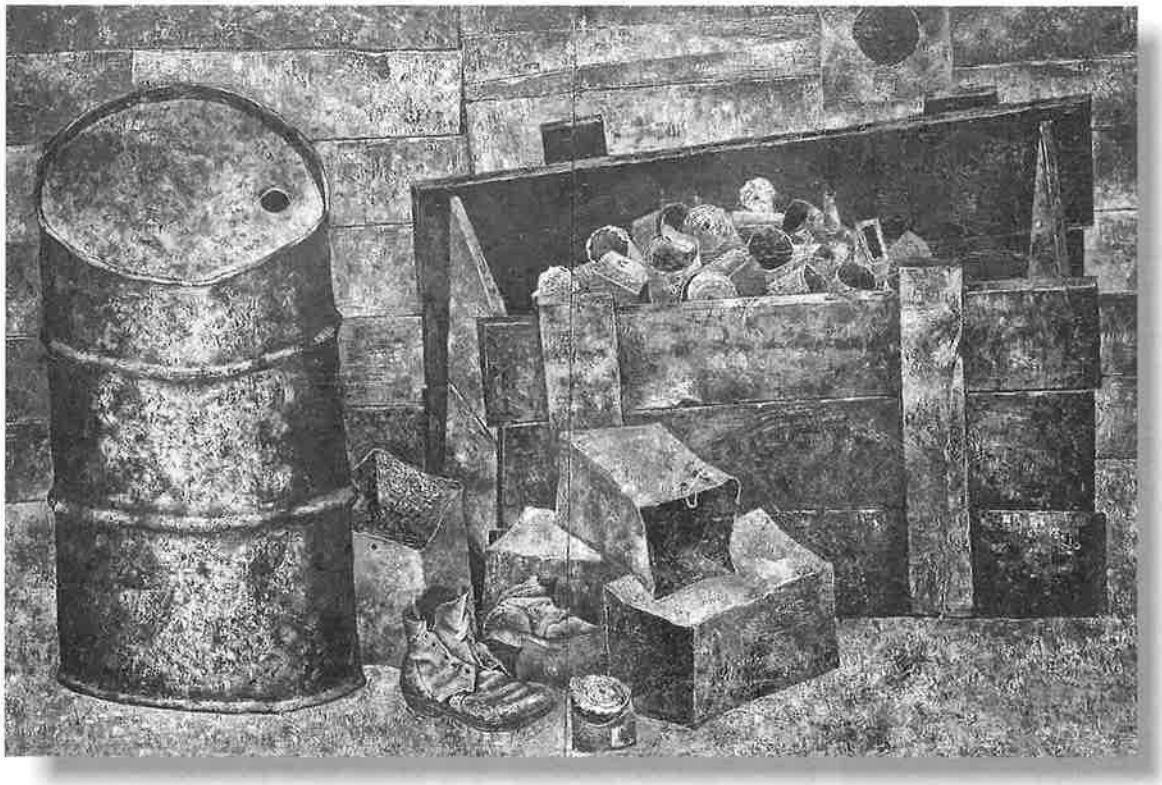
神田日勝記念館だより

神田日勝記念館　〒081-0292　北海道河東郡鹿追町東町3丁目2　TEL（01566）6-1555



ゴミ箱　1961年

1999　3.31　No.10

平成十年度特別企画展　風土への視線

十一年二月二日から開催している特別企画展「風土への視線」では、神田日勝作品に併せ北海道立近代美術館の収蔵作品の中から、日勝作品と共通する風土性を色濃く投影した北海道出身の画家の作品を展示しています。

神田日勝が制作活動を展開した時代の北海道は、高度成長期にあたる国内の状況の中、いくつかの全道規模の公募展が生まれ、画廊等も各地に誕生するようになりました。そうした発表の場の広がりにともない、さまざまなスタイルの美術表現が試みられ、生み出されていった時期でもあります。長年にわたり待望されていた北海道立美術館も開館し、美術への関心は全道的に高まりを見せました。

本展では、この戦後の北海道美術界で早くから注目を集め、全道的な公募展に出品、東京・札幌を中心に個展を開催するなど、旺盛な制作活動を続けた画家の中から、七作家を取り上げました。

各作家は、油彩や木版という技法によって、それぞれ独自の世界を構築しています。朽ち果てた漁家、懐かしい建物が立ち並ぶ都会の風景、馬や牛乳缶を描いた農村風景等、生活に深く根ざしたこれらの題材は、さまざまな形で画面へと描きだされていきました。

しかし、それらの作品の根幹を貫いているのは、北方の風土の厳しい自然環境とその中で展開される人間の営為であり、作家はさまざまな個性を際立たせながら、そこに視線を向けているのです。

「結局、どういう作品が生まれるかは、どう云う生き方をするかにかかっている。」―こう語った神田日勝のリアリズムの世界もまた、寒冷地という気候風土に生きる農業者としての生活と深くかかわって生み出されています。日勝の公募展出品作には制作の場である十勝地方を題材とした風景は描かれていませんが、農耕馬の姿や肉体労働者を描いた作品からは、生活感とともに北国に繰り広げられる厳しい労働の状況が感じとれます。

芸術表現の場では、制作者が生まれ育ち生活する地域の風土が、作品に深い影響を及ぼすのは当然のことといえます。さまざまな題材を選びながらも、作家は北方特有のイメージをより具体的に私たちの前に提示してくれます。本展を通じて神田日勝の絵画世界への新たな視点を感じとっていただきたいと思います。

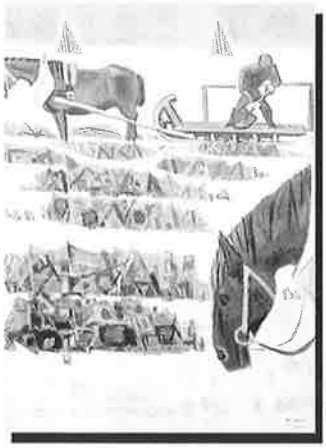
また、会期中二階展示室には個人蔵の日勝作品「風景」「湿原の風景」の二作品と、新収蔵作品「風景」を展示しています。新たな日勝の風景画をご覧ください。

◎ギャラリートーク

「風土への視線」展関連事業として、二月二十一日に当館学芸員によるギャラリートークを開催しました。展示室内での作品を前に、各作家・作品にまつわるエピソードを交えて解説し、さらに参考図版で関連する北海道ゆかりの作家を紹介。十二名の参加者からは「日勝を取り巻く美術の世界を再認識した。次回の開催を期待します。」との声も聞かれました。

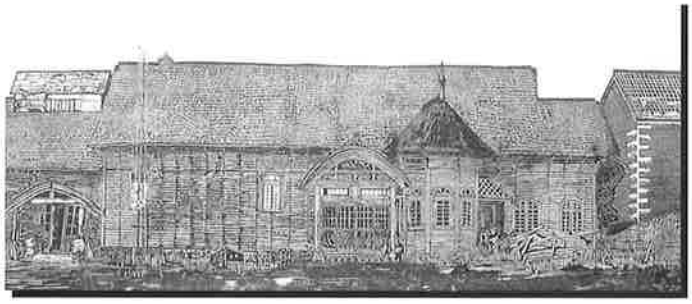
作　品　紹　介

台風の跡
1958(昭和33)年　油彩・カンヴァス　65.1×90.0
木田金次郎
1893（明治26)年—1962(昭和37)年



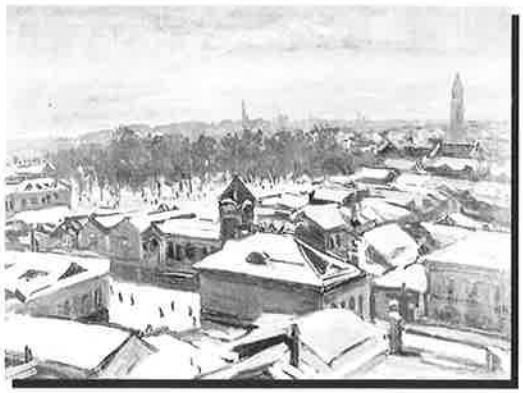
客　土
1960(昭和35)年　油彩・カンヴァス
130.3×97.3
一木万寿三
1903(明治36)年—1981(昭和56)年

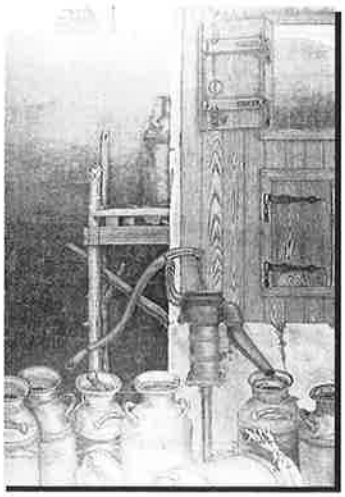
秋陽漁家
1976（昭和51)年　木版・紙　45.0×90.0
尾崎　志郎
1923（大正12)年—



原　野
1953(昭和28)年
油彩・カンヴァス
144.0×95.0
松樹　路人
1927(昭和2)年—

札幌雪日
1943（昭和18)年　油彩・カンヴァス　97.0×130.5
松島　正幸
1910（明治43)年—





北辺漁港
1960(昭和35)年　油彩・カンヴァス
194.0×130.3
国井　澄
1917(大正6)年—1971(昭和46)年

牛乳台のある風景
1978（昭和53)年　油彩・カンヴァス
193.9×130.1
瀬戸　英樹　1940(昭和15)年—

子どもワークショップ

冬

一月十二日（火）
神田日勝記念館前庭

冬休み中の一月十二日に子どもワークショップ「雪と光で遊ぼう」を開催しました。七人の小学生は記念館前庭で雪の造形に挑戦。雪柱にノミで彫りこむレリーフ作品と、バケツに雪を固めて作るスノーキャンドルを制作しました。何もなかった雪原に自分たちの作品が設置され、最後に全ての作品にロウソクを点灯すると、闇に浮かぶ明かりの幻想的な世界に子どもたちから歓声が上がりました。

春

三月二十六日（金）
鹿追町民ホール

春休みの三月二十六日には子どもワークショップ「紙粘土でつくーる」を開催。紙粘土でキャラクターや自分の顔、動物など、自由な発想で形を作り着色し、個性あふれるオリジナルの作品を作り上げました。一人でいくつも作ったり、色を工夫したりとそれぞれに制作する楽しみを味わっていました。

子ども絵画教室 ―油絵講座―

一月十一日・十三・十四日
●鹿追町民ホール

今年度で四回目となる小中学生を対象とした絵画教室が、冬休み期間中に開催され、初回から参加の一名を含む五名の小学生が受講しました。昨年度に引き続き、通明小学校長の出村英和先生を講師に迎えて指導を受けました。用意された模型の果物、空き瓶やコマや紙風船などの中から好きなものを選んで、静物画を描きました。自分の好きなものを選んで描いたため、それぞれ違った内容の作品ができ上がりました。

絵画教室 ―油絵講座―

二月十日・十七・二四日
●神田日勝記念館

今年度二回目の絵画教室―油絵講座が、通明小学校長の出村英和先生を講師に迎えて開かれ、十月の教室に参加した二名を含む五名が受講しました。前回受講の二名は、数年間経験を積んでいることもあり、先生からの勧めで初めて自画像に挑戦し、初心者を含む三名は、静物画を中心に制作に取り組みました。最終日には、それぞれが描き上げた作品を並べての合評会を行い終了しました。

感想ノートより―⑧

演劇「わたしの神田日勝」を札幌市でもホールで観劇してから、神田日勝に興味を抱きました。
きょう（H10.10.24）は、仕事で帯広に来ましたので、この記念館に足を運びました。
作品を見ているうちに、あの演劇がよみがえりました。あの日は、妻も共に涙を流して感動しました。ありがとう日勝。

10/24
今朝、お天気が悪かったけど、
今日は、もう日勝峠を越えることはできないかも知れないと
思い、思い切って車をとばして来ました。
又、冬がきて、日勝峠を越えるのが大変になってきます
来年春になったら、又、遊びにくるつもりです。
いろんなパンフレットを描いた馬はいっぱいあるけど、
私は日勝の馬が好きです。　白老

11/3 ただ迫力があるというだけではない。
ここには人々のくらしと自然への心があらわれている
と感じました
来てよかったです　四日市市　まっちゃん

11.14（土）

日勝記念館は2度目です。
中学生の頃に道立近代美術館で「室内風景」をみた時から
日勝は私にとって気になる画家でした。
同じく中学生の頃の学力テストに有島武郎の「生まれいずる悩み」
が問題として出ていて　その時から、神田鉄郎も（作品を
知らないくせに）気になる画家でした。
多分、私は、作風をさることながら、生活しながら、その生き方を
作品にあらわす…という彼らの姿勢が好きなんだと思う。

なぜか今日は、ビデオをみると、作品を見ると泣けてしまって
困ります。学生時代から色いろな美術作品を見ますが、やはり
日勝が好きだ!!
紺野

7/28 SUN SUN ☀の日
『何にも出来ない』『私はダメ』なんて言ってられないですね
何が出来るのだろう！　やってみよう！　と思いました
明日にワクワクします
☀勝さん　ありがとう　キャロライン

神田日勝記念館開館五周年記念事業

「わたしの神田日勝」公演

十一月二十二日　鹿追町民ホール

平成九年札幌の劇団シアターIIにより「かでる二・七」で上演された話題をよんだ演劇の鹿追公演。原作は神田ミサ子著「私の神田日勝」。子役として地元笹川小学校四年生の石村雄輝君（日勝）と六年生の中村俊介君（兄一明）も出演しました。町民ホール事業実行委員会が主催、上演実行委員会が組織され、全町規模の取組がなされ、公演前日には劇団員と実行委員の交流会がピュアモルトクラブハウスで開催されました。当日は満席の盛況、数々の挿話が展開される中、人間日勝と夫人織りなすドラマと劇的な終焉が観客の感動と涙を誘っていました。

「絵で見る神田日勝の生涯」発行

苫小牧在住のイラストレーター平田允子さんが描いた「神田日勝の生涯」。子どもたちのために日勝の一生をわかりやすく紹介する目的で、館内用パネルとして制作された原画を五周年記念事業の一環として絵本化して発行しました。この冊子は鹿追町の全児童に、日勝理解の一助として配布されました。

第四回馬の絵作品展巡回展（浦河町・岩内町）

第四回馬の絵作品展の巡回展が十月二十日から十一月一日まで馬産地日高の浦河町立伏木田光夫美術館（仮称）で、十一月十三日から二十三日まで日本海に面する岩内町の木田金次郎美術館で開催されました。入選作九十二点に併せ、巡回展の会場となった地域から応募された作品も同時に展示。全道から集まった馬の絵を鑑賞しようと、学校で美術の授業に取り入れるなど、他地域の子どもの作品に関心が集まりました。

展覧会事業　会場／鹿追町民ホール

中谷有逸展―版の世界

十一月二十五日～十二月一日

道展・モダンアート協会・道版画協会の会員で、十勝で制作活動を続ける中谷有逸氏の版画展が開催されました。同時期帯広市内で開催された油彩・水彩・版を集大成した作品の中から版画作品のみを選び、四十点を展示しました。今回は一九六三年の初個展出品作品二点を含む、過去五年間の作品を主体に構成され、会場を訪れた観覧者は画家の作風の変化に見入っていました。

所蔵作品貸出し

「風景」
第23回釧路市民文化展「北のイメージ―四季彩の響き」
会場／釧路市生涯学習センターアートギャラリー
会期／10月3日～11月3日

「晴れた日の風景」
「太陽と月アートでものがたり」
会場／北海道立近代美術館
会期／12月25日～1月31日

「馬」（絶筆）
「神田日勝展」
会場／北海道立近代美術館
会期／2月6日～4月18日

INFORMATION　平成11年度前期主な事業予定

実行委員会事業

- 蕪墾祭（6／17）
- 馬耕忌（8／22）
- 馬の絵作品展（10／5～11）

- 展覧会事業
  木下晋展―えんぴつの世界（4／29～5／9）
  中西堯昭展（6／2～7）
  ホシバ　リョウミツ展（8／10～18）
  北の現代具象画展（8／21～29）

※表題は、館長 高橋揆一郎筆です。